

北九州医療・介護連携プロジェクト会議 第9回合意事項等

日 時	令和3年3月15日（月）19：00～20：00		
場 所	北九州市役所 3階 大集会室		
参加者	北九州市医師会	安藤 文彦	○
	福岡県介護老人保健施設協会北九州ブロック	犬塚 寛	○
	小倉医師会訪問看護ステーション	加藤 ひとみ	○
	福岡県看護協会	境 美津枝	欠席
	北九州市薬剤師会	佐藤 千穂	○
	北九州市歯科医師会	重藤 弘之	○
	ケアマネット21	白木 裕子	○
	小倉在宅医療・介護連携支援センター	白土 健司	○
	北九州高齢者福祉事業協会	曾我 満美	欠席
	福岡県作業療法協会	玉野 和男	欠席
	福岡県介護支援専門員協会	坪根 雅子	○
	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	藤好 正和	欠席
	福岡県理学療法士会	山内 康太	○
議題1	<p>【とびうめ@きたきゅう新規登録者数を報告】</p> <p>○18,537名（令和3年2月末時点） 他都市の事例と比較しても、驚異的な増加量と考える。北九州市の医療・介護専門職、地域住民が協力してきた結果である。</p>		
議題2	<p>【医療・介護連携ルール活用状況等の調査結果について】</p> <p>○消防局から、入所者・利用者が救急搬送された際に備え「事前に記入しておく用紙」をもらった。「とびうめ@きたきゅう」を消防局が見れるようになれば、必要なくなると考える。「とびうめ@きたきゅう」の登録者数も増加してきているので、消防局での活用も検討していただきたい。</p> <p>○ただ、救急隊は一刻も早く患者を医療機関に搬送しなければならない。一刻を争う中、検索しても情報がないではメリットがない。そのため、「検索すると患者情報がある」というケースが多く期待できるように、登録者数を増加させていかないといけない。</p> <p>○新型コロナウイルス対応の中ということもあり、登録者の増加も足踏みしている感がある。ただ、登録を勧めた利用者からの評判は良く、本事業所では新規利用者と話す際に必ず「とびうめ@きたきゅう」の説明も合わせて行うようにしている。</p> <p>○「病院がケアマネ事業所に利用者入院の連絡をしなかった理由」を知ることが大切である。今後、各病院の連絡できない理由を把握し、必要なサポートを行っていききたい。</p> <p>○登録者数をいかに増やしていくかが、北九州医療・介護連携プロジェクトの成否を左右すると考える。各診療所にも登録に協力してもらうように依頼をしているが、あまり期待できない。「種別ごとで集めた新規登録者数」を見ると、「区分：その他（自治会）」が増加してきている。今後は、自治会、老人クラブなど地域の力にも期待したい。</p>		
議題3	<p>【「とびうめ@きたきゅう」の普及促進にかかる土台づくり】</p> <p>○診療所では、患者に「とびうめ@きたきゅう」の説明をする余裕がない。見ただけで登録をするようなポスターができればいいと考える。</p> <p>○かかりつけの病院以外の病院に救急搬送されたケースがある。高齢者や要介護認定者が多く登録しているが、若い世代の方にも多く登録していただけるようにしていきたい。</p>		

議題 4	<p>【登録申出書受け付け先の市HPでの公表】</p> <p>○まずは行政機関と医療機関ということだが、協力機関として機関名を公表することで公表機関が責任を持つようになるため、良い事だ。</p>
議題 5	<p>【区保護課における「とびうめ@きたきゅう」へのアクセスについて】</p> <p>○議題のとおり、緊急時等に各区保護課で「とびうめ@きたきゅう」を閲覧することについて了承する。</p>
議題 6	<p>【北九州医療・介護連携プロジェクトのリーフレットについて】</p> <p>○了承。後日、リーフレット（案）を共有する。</p>